



特集

# 「小6 合判模試」2

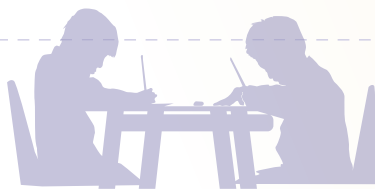
中学入試レポート vol. 2

## わが子にあった 中高一貫校を 見つけるために！

～ with コロナ時代の「学校を知る機会」の活用法と、夏休みの上手な過ごし方～

コロナ感染対策のための緊急事態宣言による外出自粛要請が解除され、6月からはようやく小学校も再開されたなか、小6受験生の皆さんは、いよいよ本格的な受験勉強に取り組む時期を迎えた。しかしこの間、学校にも塾にも通えず、不安を感じていた受験生と保護者も多いことと思う。

そして夏休みを前に、さまざまな課題を感じていることだろう。しかし、そうした状況下であっても、保護者の皆さんは、わが子の受験校を考えていくうえでの大切な時期を迎えた。この6年生の大事な時期に、お子さんの健康と安全を守り、生活をサポートしてあげるのと同時に、お子さんにとってベストの受験校選択をしていく必要がある。そのためにも、いまの時期から、ぜひ多くの私学のオンライン説明会や相談会に参加していただくことをお勧めしたい。不安や苦勞が多いなかではあるが、「withコロナ時代」の来春2021年入試に向けて、前向きな気持ちで「いま、できること」に集中して取り組んでいただくと良いだろう。



首都圏模試センター

## 来春2021年入試に向かう状況を一変させた 新型コロナウイルスの感染拡大による 世界規模のパンデミック

今春2020年の首都圏中学入試が一段落した直後の2月末から、小6受験生と保護者が来春2021年入試に向かおうとした矢先、事態は一変した。

新型コロナウイルスの感染拡大による世界規模のパンデミックという予想外の出来事によって、小学生のご家庭も平常時の例年とはまったく違う生活を強いられることになった。

2月末に政府から出された3月中の休校要請に続き、4月7日の緊急事態宣言による外出自粛要請のもとで、全国ほぼすべての小・中・高・大学生の学校生活は一変させられることになった。その間、学校から児童・生徒・学生の姿は消え、皆が自宅で過ごすことになった。

ようやく緊急事態宣言が解除されたのが5月26日。その後、少しずつ生徒の登校も再開され、6月に入ってからは多くの学校が登校を再開して、それぞれのキャンパスに子どもたちや中高生、大学生の姿が戻り始めた。

## 3～5月に一斉に動き出した、 私立中高の「生徒の学びを止めない」 オンライン・遠隔での「学校再開」

私立中学校・高等学校でも、年度末の3月に予定されていた様々な行事（卒業式や入学準備会など）や、新年度のスタート時に予定されていた入学式やオリエンテーションなども、多くの学校が中止や延期にした。そして結局は3月から5月いっぱいまで、登校しての学校再開はかなわず、各校の生徒は自宅で過ごす年度末～新年度を迎えることになった。

しかし、そうした状況のもとでも、多くの私立中学校・高等学校は、決して“生徒の学びを止める”ことはしなかった。

オンラインや郵送、宅配便など、あらゆる可能な手段を使って、教科書や教材、課題を届けるなどして、外出自粛期間中にも、生徒が“学び続けることができる”状態をつくる努力と工夫を全力

でしてくれた学校が大半だった。

なかでも、大半の私立中高はオンラインを使って何らかの形で生徒とのやり取りを継続、再開し、登校はできない環境下でも「学校を再開」していたのだ。編集部の知る限り、全国で最も早く、自宅にいる在校生とのオンライン授業を3月2日（月）からスタートさせた●静岡聖光学院〈静岡・静岡市。男子校〉をはじめ、ICT活用に先進的ないくつかの私立中高は、3月中からオンラインでの生徒とのやり取りを開始した。

続いて新年度に入ると、4月上旬（4月1日～6日）に、入学式のみは規模を縮小、安全対策をしたうえで実施した学校もあったが、大半の学校は入学式や始業式自体もやむなく延期にした。

政府から緊急事態宣言が発出された4月7日以降には、全国ほぼすべての学校が、外出自粛要請を受け、再び（継続して）休校となり、生徒はここからさらに約2か月間、自宅で過ごすことを余儀なくされた。

しかし、多くの私立中高は、この間にも“生徒の学びを止めない”ために、教職員が一丸となって、そのための準備を進めていた。この期間に一斉に、オンライン授業の動画などを制作し、その後まもなくオンライン授業の配信をスタートさせた私立中高も多かった。

たとえば●聖学院〈東京・北区。男子校〉は、4月13日（月）には、計100本もの授業動画をオンラインで一斉に配信を開始し、そのスピード感と授業クオリティーの高さに生徒を感嘆させたというエピソードが、その後のマスコミ報道などで伝えられている。生徒に「1人1台iPad」を導入して6年目を迎えた●佼成学園〈東京・杉並区。男子校〉では、やはり4月13日から一斉にオンライ



来春2021年からの公共化と同時、中学入試でも国算「聴解リスニング問題」の出題や、算数＋「英語か言語技術」を選択する午後特色入試の新設など大胆な入試改革を行なう芝浦工業大学附属中。



# 特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～ withコロナ時代の「学校を知る機会」の活用法と、夏休みの上手な過ごし方～



全国で最も早く3月2日(月)からオンラインでの学校再現(授業やHRなど)を実現した静岡聖光学院の教職員がオンラインで発信した「愛は勝つ」合唱動画を

ン授業を開始。それ以前にも3月31日からオンライン春期講習、4月1日からは部活の生徒同士のオンライン交流なども始められていたという。

このほかにも、4月以降多くの私立中高では、オンライン授業(動画配信やリモート授業など)をはじめ、課題配布～提出、朝のホームルームなどの学校生活をオンライン上で再開。個別面談や部活動、時間割を組んだ学校生活の再現まで、機敏な動きで“生徒の学びを止めない”動きを一斉にスタートさせていた。

それは、オンラインを活用した、メンタルケアも含めた「生徒の健康・安全」と、未体験の環境下でのモチベーションの維持も兼ねた「学習機会」の確保のためであった。

この間の様々な私学の(先生方の)、在宅中のわが子への対応を間近で見守っていた保護者からは、「毎朝、先生とオンラインでのホームルームで顔を合わせ、声をかけてもらったり、クラスの仲間の顔が見られて声を交わせるだけでも、大きな安心感を得ることができた」といった感想が多く聞かれた。

外の様子は一見平常時と変わらない状況下で「外出を控える」経験は、それぞれの家庭にとって、やはり大きなストレスであったはず。そのなかで、「学校(先生や友達、クラスや部活動の仲間)とのつながり」を、たとえオンライン上でも日々感じることができたことは、生徒や保護者にとっても大きな励みや心の支え、生活リズムの柱になったに違いない。その意味では今回のコロナ禍での生活が「学校の存在意義」そのものを考えさせられる機会になったということもできるだろう。

## 3～4月に先行した私立中高に続いて、5月連休明けまでには、私立中高の「85%以上」がオンライン授業を実施!

その外出自粛期間中に首都圏模試センターでは、4月の新年度スタートの前日、3月31日(火)に緊急Webアンケートを実施。首都圏の約200校(すべての学校ではなく、当社が運営するWeb情報サービス「しゅとcommu-link」でご登録校)宛に依頼した。

すると、4月10日までに約100校からの回答があり、その結果、この4月初旬の時点で、回答のあった私立中高の「約65%」が、すでに何らかの形でオンラインによる生徒とのやり取りや授業を実施していたことが判明した。

そのアンケート回答からは、当初の緊急事態宣言の期間とされた5月の連休(～5月6日)明けまでには、さらに「80%以上」がオンライン対応を予定していることも判明した。

少なくとも(緊急事態宣言の解除が予定されいた)5月連休明け(5月7日～11日)までには、おそらく「私立中高の85%以上」が、何らかの形でオンライン授業やホームルームなどのやり取りを実施していたと考えて良いだろう。

ただし、決してオンライン授業だけが“生徒の学びを止めない”学校活動というわけではない。4月初旬の始業式ができずに、新年度の教科書や教材、ノートPCやタブレットなどの端末を用意していたにも関わらず、それを手渡しできずにいた私立中高もあったのだが、教職員が総力をあげて、宅配便や郵送などで、それらを生徒、新入生の自宅に届ける準備をして、迅速に発送を行っていたことも知っておきたい。

その後、5月末から6月初旬にかけて、ほとん



例年1月20日に幕張メッセで実施される川中受検第1セは、集まる約2万人の生徒が1つの会場に集まるという形が実施されるか?

どの私立中高が、分散登校などの工夫と、教室をはじめとした校内施設の安全対策をしたうえで「生徒の登校を再開」しているが、まだ6月上旬の時点では、あくまで「分散登校」主体のため、登校しない学年やクラスの生徒に対しては「オンライン授業との併用」を続ける形で学校を再開しているのが実情だ。なかには生徒と教職員の安全を考慮して「6月いっぱい」まで、もしくは「1学期間（～7月）中」は、これまで通りのオンライン授業を継続すると公表している学校（三田国際学園など）もある。

それもまた「私学ならではの柔軟な独自の対応」ということができるだろう。

少なくとも、コロナウィルスに有効なワクチンが開発され、医療の現場に流通して人々に行きわたるまでは、「アフターコロナ」といえる社会環境に戻るわけではない。だからこそ、今後まだ続く「withコロナ」の時代（期間）には、オンライン活用による授業や学校活動は、今後も継続されていくことになるはずだ。

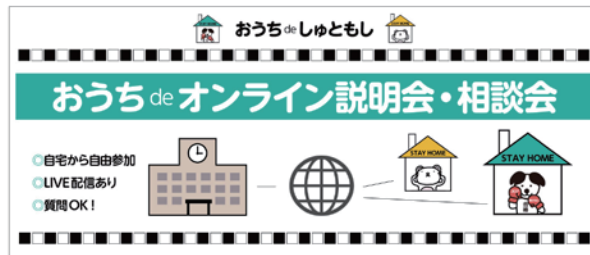
中学受験生（小学生）がお通いの進学塾・学習塾でも、教室でリアルな授業を受ける形と、オンライン授業を受講する形を、各家庭の希望によって選択できるようにして、塾を再開したケースも少なくない。

中学受験生と保護者の皆さまには、そうした前提も意識して、これから来春2021年入試までの受験勉強と受験準備、学校選びのためのアクションを進めていっていただきたいと思う。

## 7月5日（日）模試と同日開催の 私立中約100校とのオンラインによる 「おうちde説明会・相談会」にご参加を！

今回、7月5日（日）にお子さんに受験していただく模試は、小6第2回「合判模試」。

「自宅受験」もしくはお通いの「塾内受験」の形で受験していただくことになるが、前回5月24日（日）にも実施した、私立中約100校によ



◀今回7月5日（日）「合判模試」に際して同日開催する、私立中約100校との参加によるオンラインでの「おうちde説明会・相談会」。保護者にはぜひ積極的に参加視聴してほしい！



◀今回7月5日（日）の「おうちde説明会・相談会」のメニュー画面。お子さんが模試と向き合うこの日に、保護者はスマホやPC、タブレットで気軽にご覧いただくことができます！

るオンラインでの「おうちde説明会・相談会」というイベントを同日開催するので、保護者の皆さまには、お子さんが全力で模試に向き合っているこの機会に、「学校選び」のためのアクションの一環として、これらのオンライン説明会や相談会に、積極的に参加（動画視聴やZoomなどのオンラインツールでの参加）をお勧めしたい。

6月に入って多くの私立中学校が登校を再開し、緊急事態宣言の解除後に出された「東京アラート」も6月12日に解除されたとはいえ、まだコロナが去ったわけではない。

徐々に私立中学校の学校説明会や相談会、学校見学会も再開されてくる見通しではあるが、それでも、1回の説明会に何百名～千数百名もの保護者が一同に集まるような人気校の説明会は、「できるかぎり“3密”を避ける」うえで、例年通りに実施できるとは考えにくい。

したがって、登校再開後に「教室でのリアル授





# 特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～ withコロナ時代の「学校を知る機会」の活用法と、夏休みの上手な過ごし方～

業とオンライン授業との併用」をしていく多くの私立中高と同じように、中学受験生と保護者も、実際に各校に足を運んでの説明会・相談会・見学会・体験会への参加と、オンラインでのこうした「学校を知る」機会を、上手に併用していく必要があるだろう。

今回7月5日（日）の模試と同日開催で実施する「おうちde説明会・相談会」《第2回》は、前回5月24日イベントの反省や保護者アンケート回答によるご意見、ご要望も生かして、大きくは、①「いつでも見られるオンライン動画説明会」と、②「質問・相談・体験ができるライブ相談会・説明会・体験会」という二つのメニューを用意している。

そのうち、①「いつでも見られるオンライン動画説明会」は、各校から提供された説明会や学校紹介の動画を「いつでも見られる（視聴できる）」ように、首都圏模試センターの公式YouTubeチャンネルにて公開するか、もしくは各校の公式YouTubeチャンネルやWeb掲載ページへリンクするURLを順次ご紹介している。今回模試の7月5日（日）当日だけではなく、その前後にも、ぜひ時間のあるときに、関心のある学校の動画をご覧ください。

もうひとつ、7月5日（日）の模試当日の9時から16時の時間帯に、各校それぞれの設定した時間に行われる、②「質問・相談・体験ができるライブ相談会・説明会・体験会」は、各校指定のオンラインツール（Zoom ミーティングなど）によって、事前や当日の参加申し込み（Webやメール、電話での参加予約）によって行われる形だ。そこでは実際にオンラインで話を聞きながら、気になる質問や、相談してみたいことなどを、遠慮なく各実施校の先生方とオンラインでのやり取りをしていただくと良いだろう。

まだ、そうしたオンラインツールに慣れていない保護者もいるかもしれないが、先にお伝えした状況により、今後の「学校選び」には必須のものとなるので、この機会に保護者の皆さまにも、こうしたツールを活用していただくと良いだろう。また、それが各私立中高で現在も行われている「オンライン授業（学校活動）」の実際を知るうえで、良い経験や視点づくりにもつながる。

日本の学校教育におけるICT活用は、世界でも遅れていると言われる、しかし、皮肉なことに、今回のコロナ禍が否応なく、そうしたICT活用の必要性を、全国の学校現場に迫ることになった。

確かにオンラインでは、交流する相手や仲間との距離感や熱気を肌感覚で共有することは難しい。しかし、そうしたリアルな交流はしにくい状況であっても、海外や遠隔地の姉妹校や仲間と課題を共有し、オンラインだからこそ可能な、「居場所を超えた」ブレースhiftで、国際的な交流や、各学校の枠を越えた、全国の中高生間の交流を実現している私立中高もある。

つまり、「リアルな交流や体験はしにくい状況であっても、“感動”や“協働”“共感”はオンラインでも実現できる」ということを、今回のコロナ禍という世界的なパンデミックの状況下でも、すでに体現している私立中高や中高生が存在することに注目したい。

## 生徒の登校が再開された現在でも、 オンラインで学校情報を収集することが、 「いま、できること」の最善の課題

正直なところ、この記事の原稿を書いている6月12日時点では、登校再開後の各私立中高の学校説明会・相談会・体験会など「学校を知る」ことのできる機会は、当初の予定のほとんどが中止か延期、もしくはオンライン形式での実施に変更になっているため、なかなか各校に足を運んでのリアルな場で話を聞いたり、実地で校内環境を見たり、対面で先生方に相談したりする予定を立てることが難しい。



例年、1月10日の埼玉入試初日に  
行われてきた米東中A日程入試  
毎年6、000名近い受験生に加  
え、付き添いの保護者、塾関係者  
が一同に集うだけに、安全対策と  
実施形式が注目される！

しかし、ようやく、「東京アラート」も解除され、第3ステップに進むとされる状況の進展のなかで、そうした実地でのリアルな「学校を知る機会」も再開される見通しになってきた。

ただし、事態が必ずしも今後、順調に良い方向に向かうとは限らない。もちろん、そうなることを切に願いたいのは誰しも共通な思いではあるが、今後しばらくの間は、その時々で、受験生も保護者も、「いま、できること」に全力で集中する以外にない。

幸い、こうした事態の以前から、各私立中高は、Webサイト（ホームページ）やSNSを使って、自校の教育内容や入試のコンセプトなどについても、相当に詳しいところまで掲載して、「学校を知ることのできる」情報発信をしてくれている。

それならば、いまは、受験生も保護者も、そうした情報発信にアンテナを立てて積極的にキャッチし、「学校選び」に役立てていただくことが最も重要な課題だろう。

**来春2021年の首都圏中学入試は、果たして例年通り実施できるのか？**  
 ～決して焦らず、“いま、できること”を！～

そして、いま私立中高や進学塾関係者、受験関係の各社で心配され、少しずつ話題にされ始めているのが、来春2021年中学入試は、「果たして例年通り実施できるのか」ということだ。

もちろん、無事にできることを願うほかないが、仮に事態がこれ以上良い方向に向かわない限りは、志願者が大勢訪れる人気校の“密にならざるを得ない”大規模な入試は、よほどの安全対策を実施しない限りは例年通りの実施は難しい。ましてや、仮にコロナの「第2波、第3波」が訪れた時には、多くの学校の入試会場で、それ以上の配慮や安全対策が求められる可能性も考えられる。

そのため、いざそういう状況になったときのこと視野に入れて、まずは来年2月1日以降の一般入試の前に実施が可能な、「帰国生の別枠入試」で、オンラインでの入試の実施に踏み切る（検討を始める）私立中学校もいくつか出てきた。湘南白百合学園、かえつ有明、山脇学園などである。

今後、そのほかにも、そうした試みを導入する私立中は確実に増えてくるだろう。

幸いなことに、この4～5年の間に急速に増えてきた私立中の「新タイプ入試」のうち、筆答試験がメインではない、「自己アピール（プレゼンテーション型）入試」や「英語インタビュー入試」、「グループワーク型入試」などは、工夫しただけではオンラインでの実施も可能になる。その可能性を見越して、最悪の場合には、来年1月～2月の一般入試も、中学入試の歴史では初めて「オンライン入試」で実施するケースが出てくる可能性があることも、視野に入れておくべきだろう。

しかし、受験生と保護者には、過度の心配は必要ない。どのような状況にあっても、各私立中学校は、お子さん（受験生）たちのこれまでの努力と、潜在的な能力や意欲を評価し、可能な限りの工夫で中学入試を実施し、来年4月には、お子さんたちをしっかりと迎え入れてくれる体制を整えてくれるはずだ。

だからこそ、受験生と保護者には、決して焦らず、心配し過ぎることなく、「いま、できること」に集中していただきたいと思う。

来春2021年入試に向けた入試要項の変更なども、ようやく少しずつ伝えられる（公開される）ようになってきた。

それらの入試要項変更については、首都圏模試センターのWebサイトにも順次掲載をしているので、そこで確認をしていただきたい。

ただし、「先が予測できない」今年の状況下だからこせ、そうした予定も、「状況によっては変更される」ことを十分に注意しておく必要がある。最後にそれを強調してお伝えしておきたい。



「日本一入試の種類が多い学校」  
 として海外帰国生のスカイプ入試も実施している。写真はプレゼンテーション形式ならはオンラインでも実施が可能だ！



# 特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～ withコロナ時代の「学校を知る機会」の活用法と、夏休みの上手な過ごし方～

## 学校説明会(オンライン説明会)では、こんなことがわかる！

～オンライン説明会に積極的に参加しよう！～

例年(平常時)ならば、これから夏休みや秋にかけて、私立・国立中高一貫校では、学校説明会やオープン・キャンパス(学校見学会)、体験授業など、受験生と保護者が「学校を知る(見る)」ことができる様々な行事が行われる時期。各校で開催される文化祭、体育祭も、9月～11月にかけてピークとなる。しかし今年に限っては、コロナ対策のために、3～7月までのそうした行事はほとんど中止か延期になり、「オンラインでの」説明会・相談会・体験会などに置き換えられた。なかには8～9月の行事を中止にした学校もある。

しかし、そうした状況下でも、保護者はわが子に合った学校を選び出すために、こういった「学校を知る」ことのできる機会には、できるだけ積極的に参加(学校紹介や学校説明の動画の視聴も含めて)していただきたい。それが「学校を選ぶ目」を豊かでかつ確かなものにする方法のひとつだからだ。

そのなかでも、「学校説明会」は、やはり各学校の考え方や、具体的な指導内容を知るための良い機会だ。ここでは簡単にそのポイントをお伝えしておこう。

### ●私学の「説明会」で話される4つの柱

1. 「教育理念・教育方針」と「目標・将来展望」  
～保護者の考えや期待と合うかどうか？
2. 「中高6年間の学習指導・カリキュラム」  
～わが子の力をどう伸ばしてくれるか？
3. 「入試状況・出題傾向」  
～どういう入試が行われるのか、またそこではどういう力が問われるのか？
4. 「進路指導と進路状況(進学実績)」  
～将来の進路に向けての指導内容・体制は？ またこれまでの進学実績と今後の期待値・目標値は？そして、すでに来年に迫った「2020年大学入試改革」への対応をどのように考えているかにも注目すべきだろう。

私学の説明会では、一般的にこの4つを軸に話がある。いずれも各校の教育内容を見極めるうえでは非常に大切なこと。好印象を受けたことや疑問に思ったことは、しっかりメモに残して、最後に受験校を絞り込むときの参考にしよう。

さらに今年度については、このコロナ禍の各校の対応や、今度の「大学入試改革」への対応も聞いておきたい。その先、現在の小学生が社会に出る新たな時代(2030年以降)の社会を各私学がどう読み解き、この日本の教育が変わる節目に、将来に向けてどういう力を生徒に身につけさせ、育てようとしているのかを確かめることだ。

合わせて意識しておきたいのは、その話の内容や先生方



「日大豊山女子中が今春から新設した英語インタビュー入試。英語での対話を中心にしたこの形式もオンラインでの実施は可能だ！」

の姿勢から、その学校の「熱意」や“将来性”を感じ取ることである。この点は、世間の評価や噂話からではなく、やはり「親が自分自身で確かめる」ことが大切だ。

また、これらの説明のあとに、「質疑応答・個別相談」や、「校内見学・授業見学」ができるケースも多い。わからないことはその場で遠慮なく質問してもいいし、あるいは後日、学校や塾に問い合わせて確認してかまわない。

また、こういった学校見学の機会を通じて、次のような点もチェックしておこう。

1. 現在の小学生が社会に出る2030年以降の世の中で必要とされるかと、その力を育てる教育について、その学校の先生方がビジョンや先見性を持っているかどうか？
2. 受付や先生の対応は親切か？  
(学校の体質や先生方の熱意を確認！)
3. 在校生の服装や言動は？  
(学校の雰囲気、生活指導、しつけを確認！)
4. 施設や設備の充実度は？  
(華美でなくとも、生徒本位に工夫された環境かどうか？)
5. 防災対策(耐震等)や被災時のための備えは？  
(いざというときの安全性を確認！)
6. 学校までの利用交通機関と周辺環境は？  
(利便性、安全性を確認！)

この数年は、先の震災後の各校の防災、安全対策がどのようになっているかも、保護者にとって確かめたいポイントのひとつになっている。

さらには「21世紀型スキル」ともいわれる「新たな時代に求められる力」を育てていくために、各私学がどのような授業スタイルや教育メソッド、教育プログラムを導入し、ICT活用をしているのかも注目すべき点だろう。



## 6年生にとっての、夏休みの上手な過ごし方！

～実現が可能な計画をつくり、自分が学習してきたことを振り返りながら前に進む～

### ●夏休みの課題や学習計画をつくるときに！

夏休みは、平常時ならばトータルすると40日間もまとまった勉強時間がとれる大切な時期。中学受験に成功した先輩たちの多くが、あとでその時期のことを振り返って、「よく頑張ったなあ…」とか「あんなに勉強した時期はほかになかった！」と口にするように、この夏休みの過ごし方や努力が、大きな意味を持つ。

あいにく今年はコロナ対策で動きが取れなかった4～5月の分の授業時間を取り戻すために、夏休みが短縮される小学校も出てきそうだが、受験生と保護者の皆さんは、決して焦らず、それぞれに与えられた時間のなかで、「いま、できること」に集中していただくと良いだろう。小学校の状況に応じて、お通いの塾も臨機応変に個々の対応を考えてくれるはずだ。

そうしたなかで、上手な生活（＝受験勉強）のリズムをつくるコツは、なるべく「無理な計画を立てない」こと。あまり意気込んで、「あれも、これも…」と課題を増やし過ぎては、かえって逆効果。手を広げ過ぎず、実現可能な課題に順位づけをして、ひとつずつ、しっかりと取り組んでいく姿勢を大事にすることだ。

夏休みは、それまでに学習してきた知識や考える技法を使って問題演習に取り組むなど、まとまった時間を、そうした力を定着させるために使える貴重な時期。だからこそ、焦らず、欲張らず、実現可能な計画を立てて、毎日少し達成感を感じられるような学習リズムで過ごすことができると良いだろう。

ただ、意識しておきたいのは、単に「がんばる」とか「成績をあげる」といった意気込みだけでなく、どういう課題に、どのように取り組むのか、できるだけ具体的な目標を立てること。

また、そうした学習計画は、完璧にこなさなければいけないものではなく、そのときどきの状況によって見直しをして、変えていってもいいものと考えておくとうい。何よりこの夏休みの親の大事な役割は、子ども自身が、やる気や日々の達成感を少しずつでも自分で感じられるように接してあげることだろう。

### ●塾での夏期講習で力を伸ばすには？

塾での6年生の夏期講習は、ある程度長い日数や時間をかけて、それまでに学習してきたことを、さまざまな演習問題に取り組むことを通して、自分で「使える力」として定着させることを狙いに行っているケースがほとんど。それだけに、夏期講習の開始までに、自分が苦手なところ、不得意なことは何かを明らかにしておきたい。そして、塾の夏期講習のテキストや資料を見て、この夏の間に、いつ、どのような分野・単元

を学習するのか、あらかじめつかんでおく。そうすることで、自分の課題に沿った努力目標や、がんばるべきポイントもわかってくる。

次に、夏期講習の授業では、できれば前日までに、今回はどの単元を学ぶのかを確認したうえで、授業に臨めるとよいだろう。そして、これまでにその単元や範囲を学んだテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万端だ。

それは「予習」とは違って、これまでの自分の学びを振り返って、新たな課題に取り組む気持ちの準備を整えること。自分が学習で身につけてきたことや、まだ足りないことを、自分自身の課題として見つけることができるのも、長い夏休みならではの、メリットのひとつと考えておきたい。

また、夏休みの講習は、多くの場合、問題演習が中心になるために、子どもたちは、自分の解答が「マルか、バツか？」ということに気をとられがち。しかし、大切なのは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確かめておくこと。それが基礎・基本を確かなものにするために最も有効な学習方法だと考えておくとういだろう。

### ●首都圏模試「思考コード」と「思考スキル」を活用して力を伸ばそう？

また、「合判模試」の受験生ならば、毎回の「解答と解説」に掲載されている、各問題が求める力の領域を示した「思考コード」と、それを解くために必要な力を示した「思考スキル」を、十分に活用して学習に取り組むことをお勧めしたい。それが、この夏以降「入試問題を解く力」を高めるためにとても有効な学習方法だと考えておくとういだろう。



山脇学園が2019年から新設した2月1日PM一國算どちらか1科入試。来春は独立した別入試として実施し、帰国生入試では在住の現地から帰国せず受付けられる入試も新設するという！